

K-755

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成12年度－

2002

山形市教育委員会

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成12年度－

平成14年3月

山形市教育委員会

序

本書は、平成12年度に実施された発掘調査の概要をまとめたものです。

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」をはじめ、約300箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において、住民福祉の向上を目的とした各種の社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。また、史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」の保存や整備を目的とした発掘調査も、継続されているところです。

いうまでもなく、現場における発掘調査とともに、調査成果の整理と報告、さらにその活用は、埋蔵文化財保護行政の重大な責務であります。山形市教育委員会におきましても、この責務を果たすべく、銳意努力しているところであります。しかしながら、発掘調査で得られた資料を整理・分類するための時間を要するものも少なくありません。そこで、昨年度は平成5年度から11年度に実施された調査についての概要を取りまとめており、平成12年度につきましても引き続き、その概要を取りまとめることにいたしました。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いであります。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

山形市教育委員会

教育長 相田良一

例　　言

- 1 本書は、平成12年度に山形市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査を総括したものである。
- 2 試掘調査については、本書をもって報告とし、今後報告書を作成する予定のあるものについては、略述するにとどめた。また、既に報文のあるものについては割愛した。
- 3 本書の作成・執筆は、五十嵐貴久・植松薰・斎藤仁・須藤英之・國井修が担当した。編集は國井修が担当した。
- 4 出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。
SI：竪穴住居跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡・溝状遺構 SK：土坑・墓坑
SE：井戸跡 SR：石積み遺構 SP：不明ビット
- 2 遺構番号は現地調査段階での番号を踏襲している。
- 3 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。
- 4 その他、必要に応じてその都度脚注を付している。

目 次

第Ⅰ章 埋蔵文化財保護の動向

調査の方法	(國井修)	1
平成12年度の調査状況	(國井修)	1

第Ⅱ章 発掘調査の概要

史跡 山形城跡	(五十嵐貴久)	4
双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡	(斎藤仁)	8
吉原 I 遺跡	(植松薰)	12
吉原 II 遺跡	(斎藤仁)	15
石田遺跡	(須藤英之)	18

第Ⅲ章 総括

平成12年度の調査成果	(國井修)	20
-------------------	-------------	----

表

表1 平成12年度埋蔵文化財発掘調査一覧…3

表2 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧 …… 20

挿 図

第1図 平成12年度調査遺跡位置図(1)	2
第2図 平成12年度調査遺跡位置図(2)	3
第3図 史跡山形城跡本丸大手門遺構平面図…	5
第4図 双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡 調査位置図	9
第5図 双葉町遺跡(山形停車場西口線立体 横断施設部分) 全体平面図	10

第6図 城南町一丁目(都市計画道路霞城 公園南口線部分) 全体平面図	11
第7図 吉原 I 遺跡調査概要図	13
第8図 吉原 I 遺跡遺構平面図	14
第9図 吉原 II 遺跡調査概要図	16
第10図 吉原 II 遺跡第2次調査遺構配置図…	17
第11図 石田遺跡遺構配置図	19

第Ⅰ章 埋蔵文化財保護の動向

調査の方法

本市教育委員会では、各種開発事業と埋蔵文化財の保護の調整を図るために、事前に調査を実施し、調整の際の基礎資料としている。その方法については、山形県教育委員会に準じ、以下のように定めている。

A調査：現地確認調査・表面踏査・聴き取り

現地に赴き、地形観察、表面踏査、周辺住民からの聴き取り等により、遺跡の存在する可能性とその凡そ範囲を推定する。

B調査：試掘調査

遺跡もしくは遺跡が所在する可能性のある区域において、その範囲内に試掘坑を設定し、遺構・遺物の分布範囲や遺構確認面までの深さ等を確認する。事業調整や調査計画策定の際の基礎資料とする。

C調査：発掘調査

A・B調査の結果、遺跡の現状を保存することができない場合、あるいは学術的に調査が必要な場合に実施する。

立会調査

工事が埋蔵文化財に及ぼす影響が軽微と判断される場合に、その工事が埋蔵文化財に及ぼす影響を確認するために工事の際に立ち会うもの。または、事業範囲が狭小で、通常の発掘調査が実施できない場合に工事と並行して行う小規模の発掘調査。

平成12年度の調査状況

平成12年度は、土地区画整理事業に伴う発掘調査を中心に、住宅団地開発事業、店舗建設工事、変電所建設工事、道路改良工事に伴う緊急発掘調査を実施している。また、国指定史跡「山形城」の整備事業に伴う学術調査も継続して行っている。

山形駅西口土地区画整理事業に伴う調査では、工場移転に伴う調査が終了し、事業地内の道路改良工事に伴う発掘調査が主体となってきている。調査を実施した遺跡は、双葉町遺跡及び城南町一丁目遺跡である。また、過年度調査部分についての整理作業を進めている。

吉原土地区画整理事業に伴う調査では、事業地内の道路建設に伴う現地調査がほぼ終了し、区画整理地内に進出する店舗建設に伴う調査が主体となってきている。調査を実施した遺跡は、吉原I遺跡、吉原II遺跡及び吉原III遺跡である。店舗建設工事に伴い調査を実施した吉原I・III遺跡については、平成12年度中に報告書を刊行している。

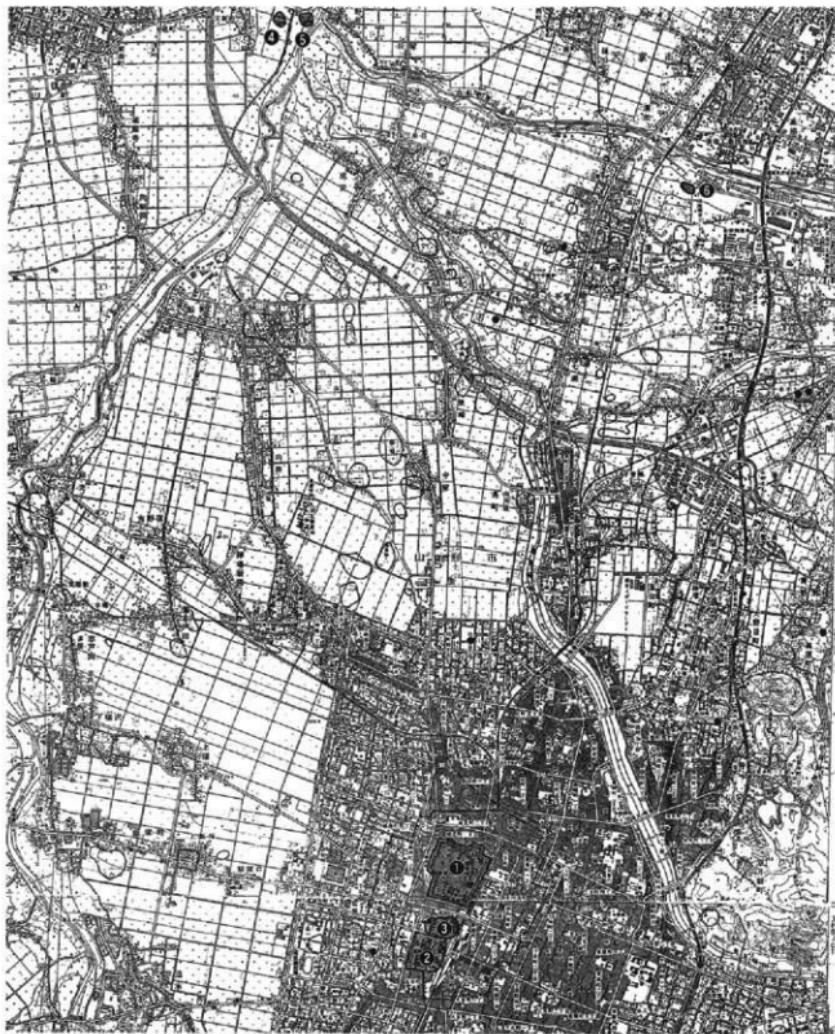
芸工大前土地区画整理事業に伴う調査では、宅地部分は埋蔵文化財への影響が軽微であると判断されたので、街区道路部分の調査のみ実施している。調査を実施した遺跡は、観音堂遺跡である。

住宅団地開発事業では、中野目I遺跡の実施している。調査成果については、平成11年度に調査を実施した中野目II遺跡とあわせて、平成12年度中に報告書を刊行している。

変電所建設工事に伴う発掘調査では、石田遺跡の調査を実施している。調査成果については、平成14年度中に報告書を刊行する予定である。

道路改良事業に伴う調査では、一ノ坪遺跡の調査を実施している。この調査では山形県内では、初となる緊急発掘調査の民間調査組織への委託を実施している。調査成果については、平成13年度中に報告書を刊行している。

なお、平成12年度の調査状況は表1のとおりである。



第1図 平成12年度調査遺跡位置図(1)



第2図 平成12年度調査遺跡位置図(2)

表1 平成12年度埋蔵文化財発掘調査一覧

遺跡名	所在地	事業名	調査区分				県遺跡番号	備考
			A	B	C	立会		
山形城跡	霞城町	霞城公園整備事業			○		1	
双葉町	双葉町	山形駅西口土地区画整理事業		○			平成9年度新規	
城南町一丁目	城南町			○			平成9年度新規	
吉原I	吉原字若宮	吉原土地区画整理事業		○			平成8年度新規	
吉原I	吉原字若宮	店舗建設工事		○			平成8年度新規	平成12年度報告書刊行
吉原II	吉原	吉原土地区画整理事業		○			平成8年度新規	
吉原III	三つ江	店舗建設工事		○			平成8年度新規	平成12年度報告書刊行
吉原III	三つ江	店舗建設工事		○			平成8年度新規	工事は造橋面まで達しない。調査工事を指示。
石田	谷柏	東北電力変電所建設工事		○			82	平成14年度報告書刊行予定
中野目I	中野目字赤坂	住宅団地開発事業		○			平成11年度新規	平成11年度に調査を実施した中野目II遺跡と併せて平成12年度報告書刊行
眼音堂	上桜田・青田	芸工大前土地区画整理事業		○			平成11年度新規	
一ノ坪	猿山字一ノ坪	市道立谷川北志田線道路改良工事		○			平成9年度新規	民間調査会社委託・平成13年度報告書刊行
	朝町	市営住宅新築事業		○				遺構・遺物とも検出されなかった。

第Ⅱ章 発掘調査の概要

史跡 山形城跡

1 調査要項

遺跡番号 県遺跡番号 1
遺跡略号 KJO
所在地 山形市霞城町3番地（霞城公園）
調査原因 史跡山形城跡本丸大手門復原整備事業
調査面積 1,400m²
調査期間 C調査 2000/8/21～2000/12/11
調査担当者 五十嵐貴久

2 調査の経緯

山形城跡は、昭和61（1986）年に国史跡の指定を受け、平成3（1991）年には「二の丸東大手門」の復原整備が完了している。その後、整備計画に基づき本丸整備の基礎資料を得るために調査が進められてきた（武田1996『山形城跡本丸堀発掘調査概報』山形市教育委員会）。平成8年度からは本丸大手門の復原整備を目的とした調査が行われ、その結果をもとに大手門石垣の復原工事が平成10年度より進められている。発掘調査も石垣復原工事に連続しており、平成12年度は東側櫓門石垣の東側に位置する本丸堀の構造調査を主眼とし、特に堀の規模を確認するために「二の丸側法面」「本丸土塁」の調査および堀内堆積土の把握等に努めた。

3 遺跡の立地と環境

山形城跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇端部湧水帯にあり、市街地のほぼ中央に位置する。一帯は藏王山系を源とする馬見ヶ崎川の氾濫による砂礫層を基盤とした平地に立地しており、現在までの発掘調査により縄文時代以来の遺構・遺物が検出されている例からも人々の生活拠点的な地域であったことがわかる。

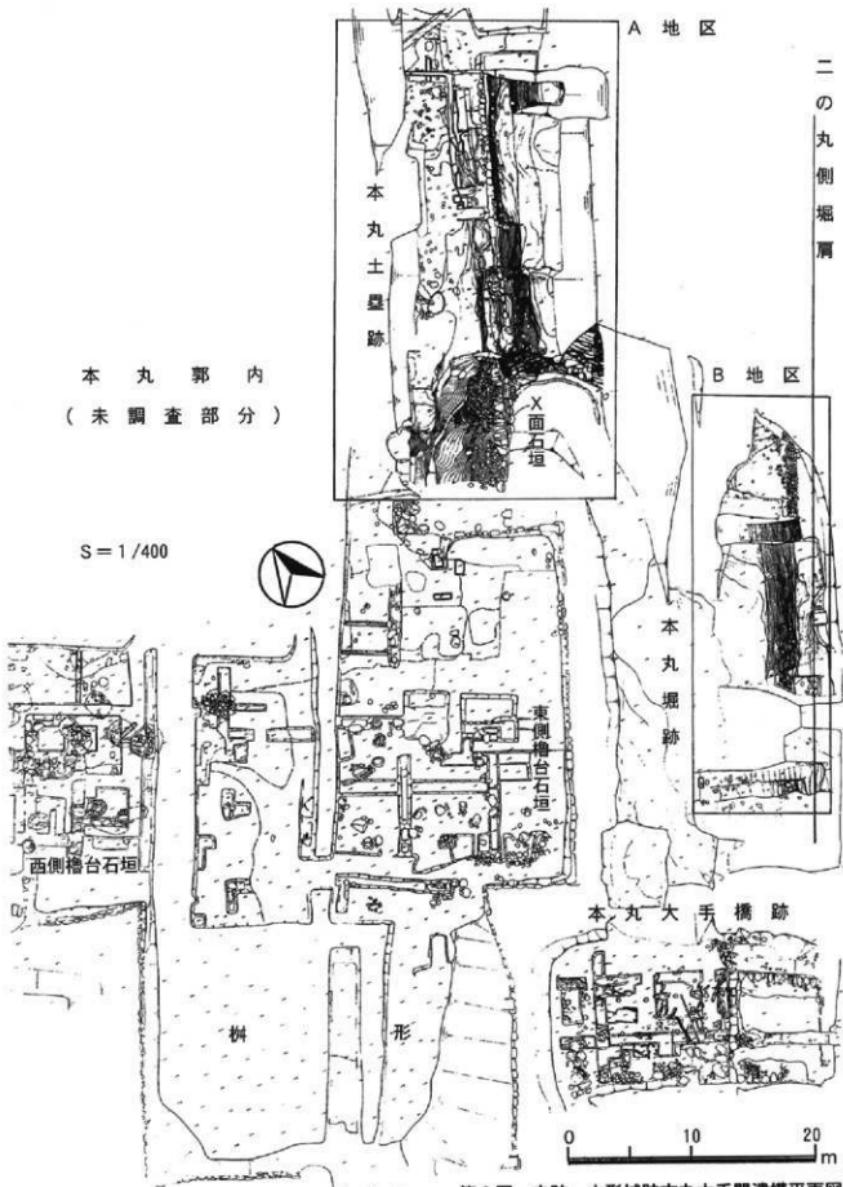
調査地点では近現代にうけた削平・整地により旧地表等は確認できないが、氾濫等による河川砂と腐植性砂質土層との互層状の堆積層が上位に存在し、下位は砂礫層が厚さ4mほども堆積する状態で、本丸堀の側面（法面）を支持するのもこの砂礫層である。現在、山形城跡は文化・体育施設等が設置された都市公園機能を有すると共に、市街地における広大な緑地として市民の憩いの場として利用されている。

4 検出された遺構と遺物

今年度の調査範囲を東側櫓台石垣の北側に続く仮称X面石垣と本丸土塁跡を含むA地区と、本丸堀の二の丸側法面検出範囲であるB地区とに分割した。以下、各地区ごとに詳細を述べる。

A地区

石垣（X面石垣）：東側櫓台石垣の北側に続く石垣で、平成8年度調査において一部表面検出済み



である。この石垣は長さ約14.5m、残存する高さは約5.5mで、その上端は鋸歯状に石材が残っていた。石材は主に安山岩を用いており、「打込みハギ」の技法による石材加工を行い、横目地が通りにくい「乱積み」に近い方法で石積みが行われている。この石垣は平成10年度の石垣解体修復において櫓台石垣との接合部分を若干解体しており、その際の内部観察による調査では両方同時期の構築であることが判明している。接合部分が3～4段入り組状に積み上がった後、櫓台石垣が先行して築き上げられ、その側面にX面石垣が据え付けられる構造である。石垣の北端部は、その北側で確認された本丸土壘の側面に据え付けた状態で確認された。土壘の支持層である砂層・砂礫層に直接石材を据え付けており、若干土砂により覆われていたことは思われるが、ほぼ確認状態に近い形で機能していたことが窺える。石垣部分より出土した遺物は比較的少なく、刀装具の小柄が1点出土したほか、瓦類が少量出土している。小柄は刃部が欠損しており、柄部は全体につく縁錆より銅製と考えられる。

本丸土壘（本丸大手門北側）：本丸大手門の北側に続く土星跡で、堀底から現地表までの残存部分が確認された。その勾配はおよそ45度の傾斜であるが、標高約126m以下では法面が緩やかになり堀底へ続くことが確認された。また、標高128mほど（堀底より約3m上）の部分で、土壘の方向にはほぼ並行した石積み遺構（SR00019）が発見された。

表面加工を施さないおよそ同規模の川原石（直径約0.6m）がほぼ2段（一部3段）に積み上げられ、その表面は土壘法面堆積砂礫層により覆われていた。調査区より北側に延長するため全容は不明だが、土壘構築に伴う土留め的な意味合いをもつ石積みと考えている。土壘は、この石積み遺構部分を除けば殆どが掘削時の地山砂礫層を堀の法面としていた可能性が高いと考えられる。土壘部分より出土した遺物も非常に少なく、土壘法面において平面下層の遺構である平安期の遺物が混在しているため、土師器等の古代遺物が少量と、古錢（永樂通宝）が1点のみである。この古錢は、石積み遺構の付近より出土しており、遺構構築年代を示唆するものと考える。

本丸堀跡（本丸大手門東側）：A地区においては、合計3本のトレンチの断面調査により本丸堀の堆積土の状態把握に努めた。その結果、土壘等の法面の傾斜角は差があるが、堀内堆積土層のレベルはおおよそ一定であることが確認された。堀底堆積土層と考えられるH5層と呼称している層序はおおよそ標高125～126m前後で、本丸堀内の水位の推定ライン（標高約126.3m）よりも下位であることが確認されたことは、将来の堀内復原整備に係わり非常に重要である。また、その上位に位置するH3層とよぶ堆積土があるが、ここからは多量の瓦類等の遺物が出土している。瓦は最も多量に出土する遺物で、本年も鬼瓦・軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦等の屋根瓦類が黒瓦・赤瓦両方出土している。瓦には「二重丸」「菊花」をあしらった刻印を施しているものや、また「十」「二？」等の判読可能な文字をヘラ書きしている文字瓦がある。陶磁器・土器類も堀内から破片資料が少量出土している。肥前系磁器・中国産磁器をはじめ、在地系陶器や珠洲・瀬戸戸の陶器類等がみられる。古瀬戸瓶子破片や龍泉窯青磁碗破片が出土しており、本遺跡周辺が中世期にさかのぼる遺構を含んでいる可能性を示しているといえよう。また、土製品と称する遺物が比較的まとまって発見されている。これは、棒状を呈し、赤褐色に被熱し表面に粗粒の痕跡をほぼ全周に付すもので、なかには輪葉が掛かった状態のものもあり、かつ殆どが破損した状態で出土している。表面には成形時よりさほど時間的経過を経ないうちにいたと思われる押圧痕が残るものもあり、恐らく瓦窯道具の一種と考えている。

墓坑（SK00057）：本丸土壘の構築面の下から発見された墓で、人骨が一体分出土した。土壘の構成土を断面観察のために掘削中発見した経緯があり、土壘構築中にその一部を破壊したと認められる痕跡があるので中世期の遺構と考えている。人骨は頭位を北西方向に向け、西向きの側臥屈葬の状態で埋葬されており、副葬品は伴わない。現在人骨は取り上げ、分析中である。

B 地区

本丸堀跡（本丸大手門東側）：B地区においては、本丸堀の規模を確定するために二の丸側法面（土羽）の検出とその構造の把握に努めた。二の丸側法面上部の堀肩はかつての霞城公園運動広場の側道とほぼ一致し排水溝等の既存施設・設備等による搅乱が著しく、現地表付近までの良好な遺構は検出できなかった。

しかし、おおよその堀幅は確定し、地上部分で約20～25mの幅であることがわかったのと同時に堀の形状もほぼ箱堀と推定できた。また、二の丸側法面の傾斜角度も約45度であり、本丸土壘の傾斜と比較的類似する傾向を示すことがわかった。法面はこちらも土壘面同様掘削した時点の地山砂礫層を法面として機能させていたことが判明し、構築時の土羽法面には経時堆積を示す傾斜堆積土層が確認され、遺物が少量出土している。瓦・陶磁器類・鉄製品・古錢などがある。

5 まとめ

今回の調査は史跡山形城跡・本丸大手門の整備に関連する発掘調査である。今回の調査により、山形城跡の石垣・土壘・堀の構造の一端が明らかとなった。特に、X面石垣とよぶ石垣は本丸大手門の他の石垣面と比較してもその端部が直接土壘形成面へ据え付けている等、特記すべき点が多々見られる。現在整備中の本丸大手門は最上氏が転封後の改修によりできたものと考えられるもので、江戸時代前期（17世紀代）の普請による構造であることがほぼ明らかである。また、整備に係わり参考としている江戸時代後期の現存する絵図としては最も詳細な古絵図（山形市柏川家所蔵）に記載されていない石垣という一面もある。このことより、X面石垣およびその周辺は山形城の城普請の有り様を示す重要な構造体と考えられる。また、本丸堀内の堆積土層はこれまで、仮説的に分層・時代区分等を行っていたが、今年度の断面観察によりほぼ推定されたほか、堀内堆積土の花粉分析及び珪藻分析等により本丸堀が湿性地（水堀）であることが証明された。

今後は、今回及び前回の調査で発見されたX面石垣等の構造、本丸堀底の構造、本丸土壘の構造等を把握するべく調査を行い、山形城の史実に係わる資料を得ることと、本丸大手門復原整備に資する情報の収集に努めたい。

双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡

1 調査要項

遺跡番号 平成9年度新規登録
遺跡略号 FTB IV (双葉町遺跡 山形停車場西口線立体横断施設部分)
JON IV (城南町一丁目遺跡 都市計画道路霞城公園南口線部分)
所在地 山形市双葉町1丁目 (FTB IV)・山形市城南町1丁目 (JON IV)
調査原因 山形駅西口地区画整理事業
調査面積 400m² (双葉町遺跡) 900m² (城南町一丁目遺跡)
調査期間 C調査 2000/5/1~2000/6/8 (FTB IV) 2000/6/19~2000/8/2 (JON IV)
調査担当者 斎藤仁 須藤英之

2 調査の経緯

山形駅西口地区は山形市都市開発部新都市拠点整備課が主体となり、区画整理事業が実施されている。事業地内は山形城三の丸の範囲内にあたり、事業により遺跡に影響を及ぼす部分に関して発掘調査を実施している。本調査は平成9年9月から実施しており、平成12年度は山形駅と霞城セントラルを2階部分でつなぐ山形停車場西口線立体横断施設の下部工と、都市計画道路霞城公園南口線の一部が該当し本調査を行うこととなった。

3 遺跡の立地と環境

本遺跡は山形市のほぼ中心部、山形駅の西側に位置する。山形市街地は東から北西に流れる馬見ヶ崎川の扇状地にあたるが、遺跡はその扇端部に立地する。遺跡周辺は現在、市街地が広がっているが、近世には山形城の三の丸城下町となっていた。三の丸の堀や土塁は、十日町の国指定史跡地内や双葉町公園・山形市立第七小学校北側などに一部現存している。

4 検出された遺構と遺物

これまでの調査で、遺跡は古墳時代前期～平安時代中期にかけての古代の集落跡、中世の集落跡、近世前期の城下町であることが明らかとなっている。今回の調査で検出されたのは、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡を主体とした集落と近世城下町関連遺構である。

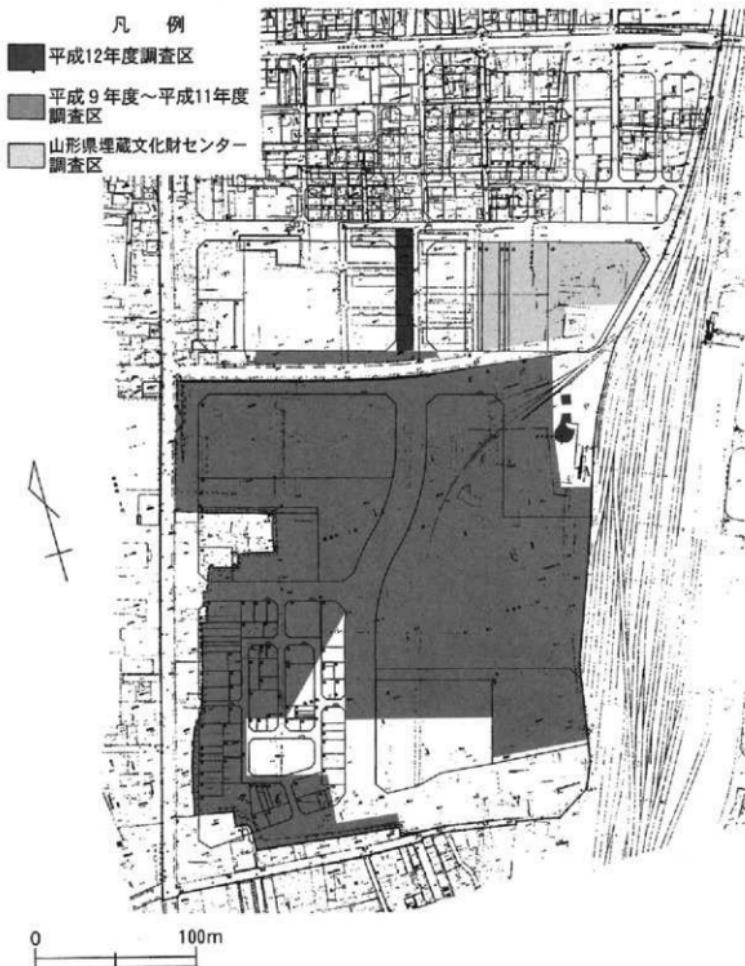
奈良～平安時代の遺構では、城南町一丁目遺跡で5棟の竪穴住居跡が検出された。検出面付近は攤乱されており、検出面からの深さは深くても20cm程度ある。周溝のみ検出された住居もあった。主軸がすべてほぼ真北にそろっているのが特徴的である。

近世の遺構はこれまでの調査と同様に、掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡などが検出された。

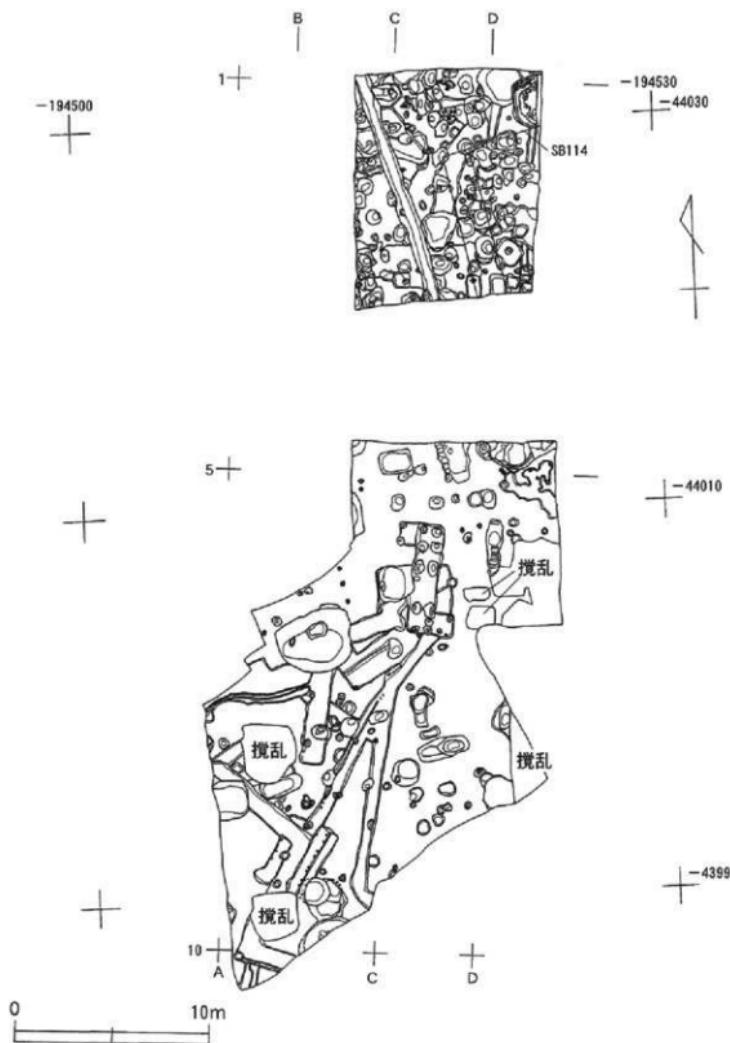
双葉町遺跡で検出された掘立柱建物跡 (SB114) は、調査区外に延びているので全体の規模は不明だが、東西2間以上・南北4間以上で西に庇が付くことが確認されている。柱穴は礎石を有し、付近からの瓦の出土が僅少であることから、瓦葺きではないと考えられる。時期は17世紀代である。

城南町一丁目遺跡では、溝跡 (SD33) が検出された。調査区のほぼ中央に位置し、東西に走る。幅6.5m～7.0m、検出面からの深さは約1mを測り、本遺跡で検出された溝では最も規模が大きい。そ

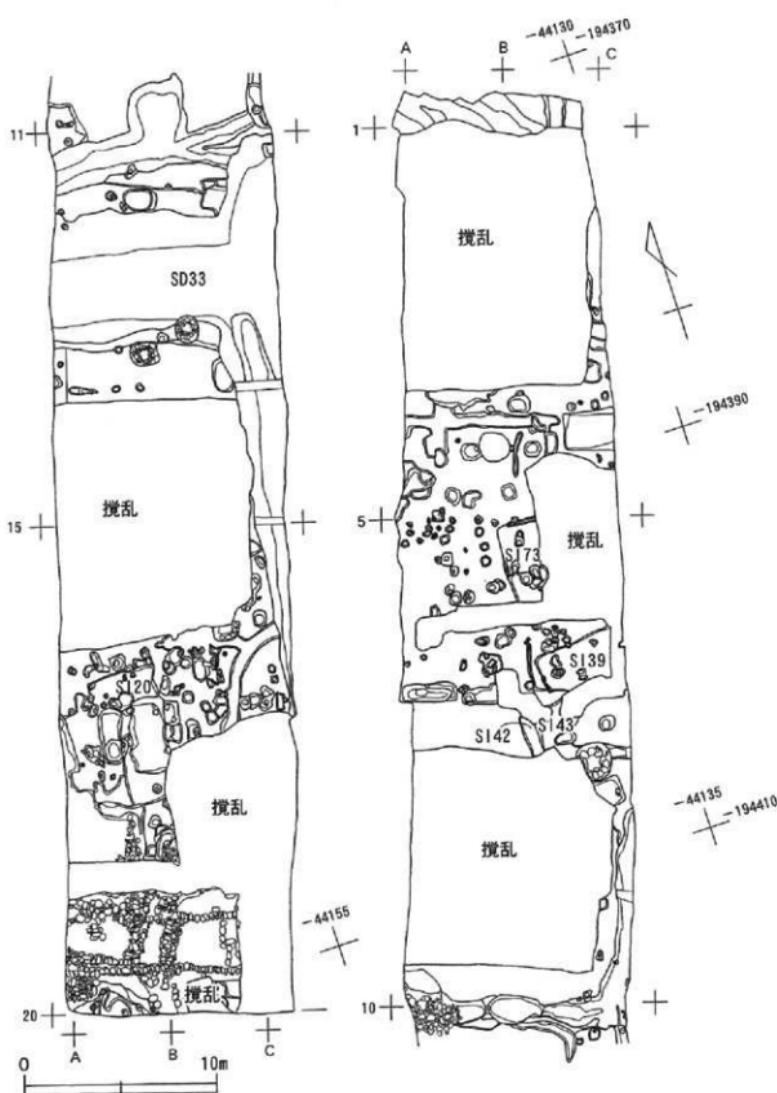
の規模から防御施設的様相が窺われる。片側に土塁が付属することが想定されるが、確認はできなかつた。時期は17世紀代である。



第4図 双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡調査位置図 (S = 1/3000)



第5図 双葉町遺跡(山形停車場西口線立体横断施設部分)全体平面図 ($S = 1/250$)

第6図 城南町一丁目遺跡(都市計画道路霞城公園南口線部分)全体平面図($S=1/250$)

吉原 I 遺跡

1 調査要項

遺 跡 番 号 平成 8 年度新規登録
 所 在 地 山形市大字吉原字若宮
 調 査 原 因 山形市吉原土地区画整理事業地内における大型店舗建設に伴う敷地造成
 調 査 面 積 店舗敷地部分 240m² 駐車場敷地部分 4,700m²
 調 査 期 間 C調査 2000/4/3~2000/4/28 (店舗敷地部分)
 C調査 2000/5/29~2000/7/31 (駐車場敷地部分)
 調査担当者 店舗敷地部分 五十嵐貴久 岩井良太
 駐車場敷地部分 植松薰 國井修 武田和宏 五十嵐貴久 斎藤仁 岩井良太
 高橋拓

2 調査の経緯

本遺跡は吉原土地区画整理事業の開始にあたり新規に発見された遺跡である。事業の進展に合わせて平成10年度より記録保存のための発掘調査を実施している。平成12年度は事業地内において大型店舗の敷地造成が計画され、各関係機関と協議を重ねた結果、記録保存のための発掘調査を店舗の基礎部分について平成12年4月3日から4月28日、駐車場敷地部分については平成12年5月29日から7月31日の期間で実施した。

3 遺跡の立地と環境

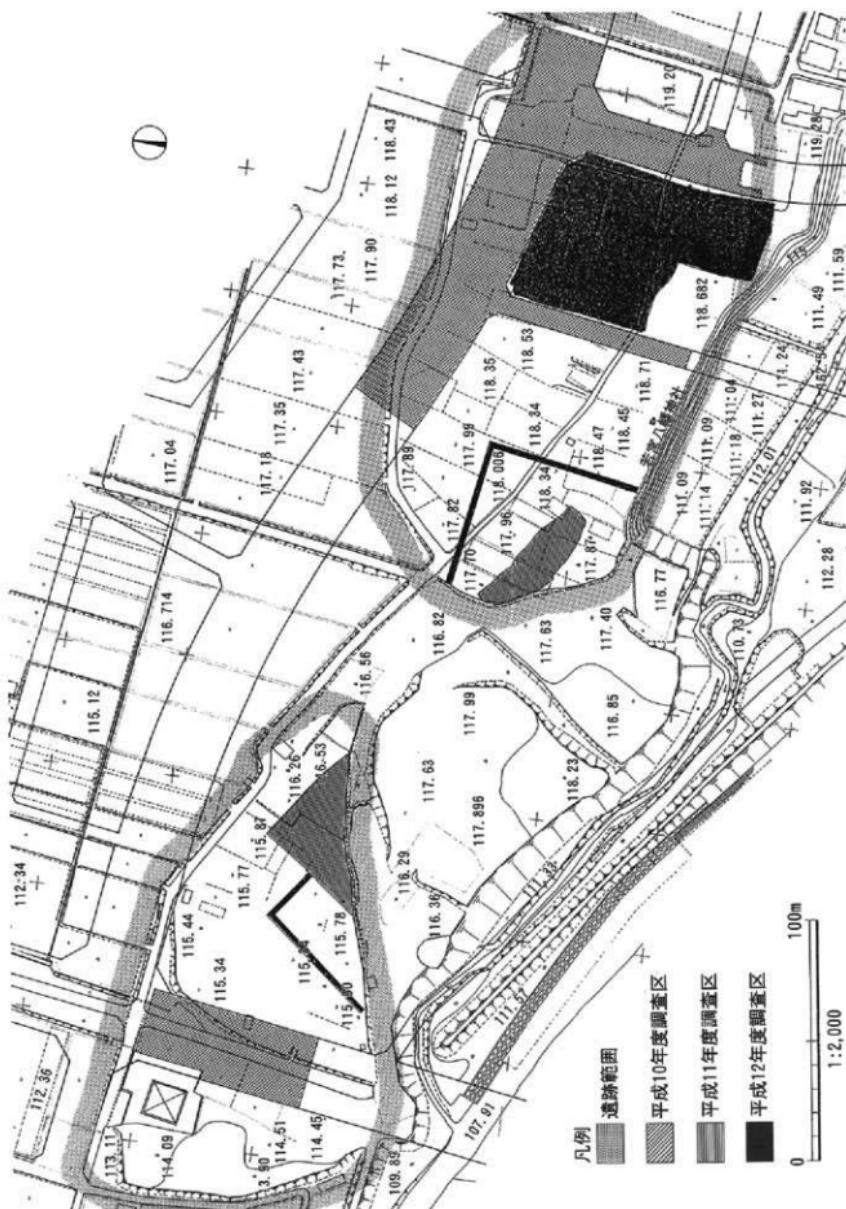
本遺跡は山形市の南部、市街地から約3km離れた山形市大字吉原字若宮に所在する。この付近は馬見ヶ崎川が形成した扇状地の扇端部にあたり、遺跡は須川右岸の微高地上に立地している。北側を犬川、南側を竜山川が西流しており、本遺跡は須川と犬川、竜山川の合流点近くに位置し、旧羽州街道が接していたことからも水・陸上交通の要衝であったと考えられる。遺跡範囲は南北110m、東西240mに広がる。調査時の地目は畑・水田で、付近の標高は118~119mを測る。

4 検出された遺構と遺物

調査の結果、奈良・平安時代と中世の大きく二つの時代の遺構と遺物が検出された。平成10・11年度の調査成果と合わせることにより、より具体的に吉原 I 遺跡の集落の様相が明らかになってきた。

奈良・平安時代の遺構は溝跡と柱穴が検出されている。溝跡は平成10年度調査時に検出された溝跡と同一の遺構で今回の調査により一辺の長さが約50mであることが確認された。

中世の遺構は竪穴状遺構12棟を始め、堀跡、溝跡、井戸跡、土坑群が検出された。調査区の南半部に遺構が密集している。竪穴状遺構は直径2~3mを測る小型のタイプと直径4~6mを測る大型のタイプの2種類が検出された。重複関係により少なくとも2時期はあるものと考えられる。また堀跡は今回の調査により北辺を除く3辺が検出され、堀跡の規模がほぼ明確になった。また堀跡の底面には一部段差及び凹凸が認められ、防御用または橋などの施設があったものと推測される。井戸跡は直径1~1.5m前後の円形で、深さは深いもので2.5~3mを測る。SE981井戸跡の覆土中より壺器系陶器

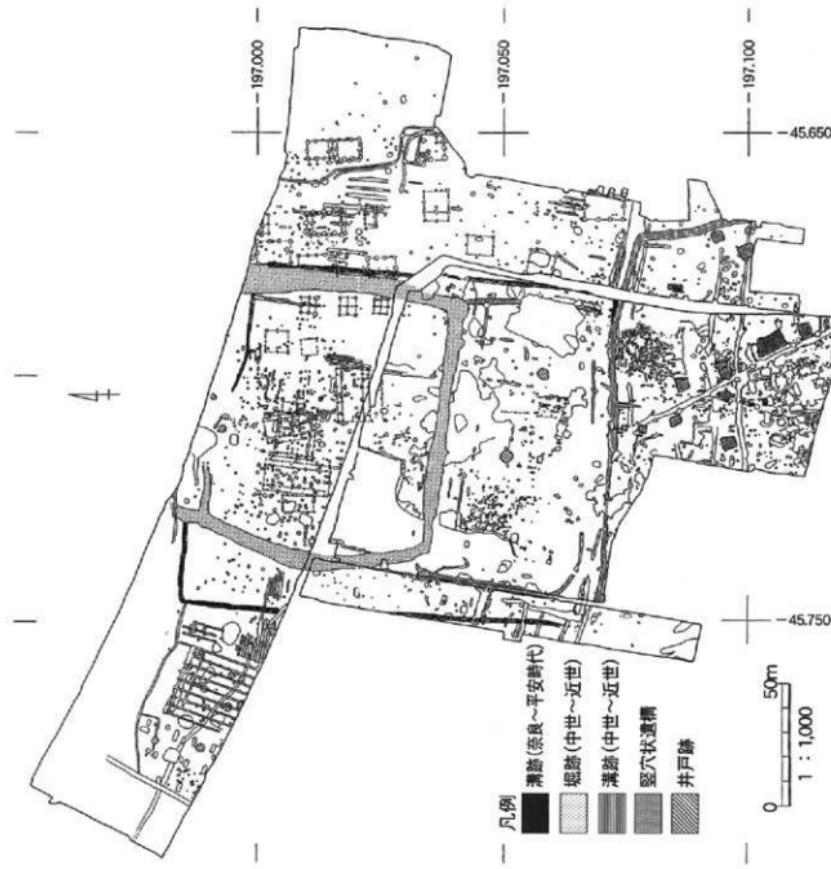


第7図 吉原I遺跡調査概要図

の壺片や短刀が出土している。溝跡はそのほとんどが区画を目的としたものと思われる。土坑群は堅穴状遺構が検出される地区に多く、覆土中より北宋銭などの古錢や金属製品が出土している。

5 まとめ

調査の結果、吉原Ⅰ遺跡における中世の集落の様相が明らかになった。堀跡の内部には母屋と思われる大型の掘立柱建物跡やそれに付属する小型の建物跡が構築されており、方形館の形態をなしている。その外部には井戸跡などの土坑群、堅穴状遺構が検出されている。堅穴状遺構についても区画された溝跡内に構築されている。時期は遺物の出土が少ないため詳細は不明であるが、堅穴状遺構周辺の遺構から瓷器系陶器の斐片や大窯期の瀬戸美濃の皿、永楽通宝が出土していること、また堀跡からは黒瓦片が出土していることから時期幅があり、14～16世紀頃にあたると考えられる。



第8図 吉原Ⅰ遺跡遺構平面図

吉原 II 遺跡

1 調査要項

遺跡番号 平成8年度新規登録
 所在地 山形市三つ江
 調査原因 吉原土地区画整理事業地内における街区道路建設工事
 調査面積 315m²
 調査期間 C調査 2000/8/21~2000/9/8
 調査担当者 斎藤仁 須藤英之 國井修

2 調査の経緯

本遺跡は平成9年度に街区道路建設工事に伴って記録保存のための調査を実施している（第1次調査）。今回は第2次の調査で、平成9年度調査部分南側の街区道路建設工事に伴い、調査を実施した。

3 遺跡の立地と環境

本遺跡は山形市内を北西に流れる馬見ヶ崎川が形成する扇状地の扇端部に立地する。付近には小河川が流れ、遺跡北側500mに犬川が、南側450mに竜山川がそれぞれ西流している。原況は水田であり、標高は123m前後を測る。

4 検出された遺構と遺物

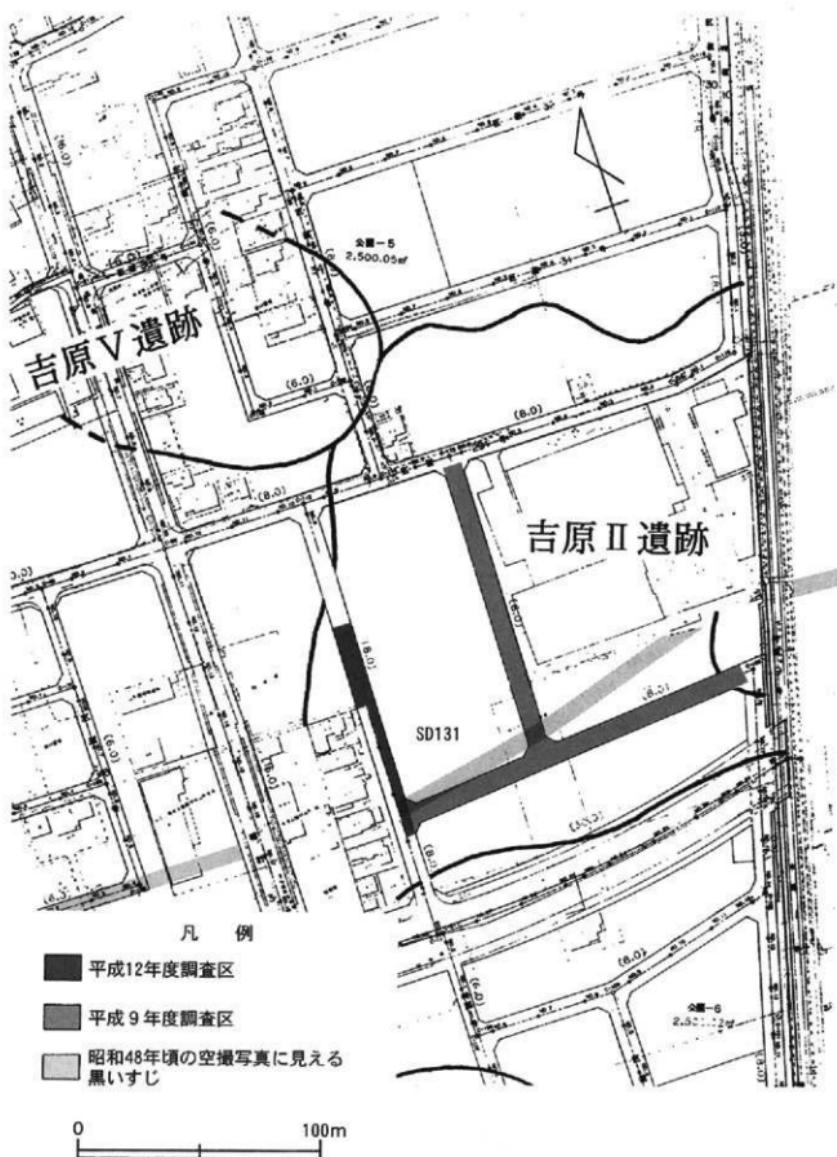
遺跡の主体となる時期は奈良時代～平安時代である。今回の調査では溝跡14条、土壙1基、性格不明遺構6基および多数のピットが検出された。奈良時代～平安時代の所産と確認された遺構は、溝跡3条、ピット1基で、他は近代以降の所産かもしくは帰属時期が不明のものである。

調査区南端で検出された溝はすべて東から西へ流れている。多数の遺物が出土したSD131は幅約4m、検出面からの深さは約1mを測る。木製品の遺存状況が良好で、木器、曲物の底、杭、流木などが出土した。土器では、土師器の碗や長胴甕、須恵器の壺や甕が出土した。8世紀後半～9世紀前半の時期が中心であるが、高台がハの字に開くあかやきの壺が1点出土しているので9世紀後半までの幅を有している。他にクルミなどの植物遺存体が出土している。

同じく調査区南端に位置するSP132は土師器甕埋設遺構である。直径約40cmの不整円形を呈し、検出面からの深さは約10cmを測る。土師器甕はピット内の東寄りに位置し、その直下から材質不明の炭化物および木質の炭化物が出土していることから、樹皮状のものに乗せられていたと考えられる。

5 まとめ

第2次調査では、掘立柱建物跡や竪穴住居跡は検出されず、今回の調査区が遺跡の縁辺部にあたることが確認された。土師器甕埋設遺構が祭祀の痕跡と仮定すると、居住空間とその外の空間との境界を意識して埋められた可能性が考えられる。SD131は第1次調査でも検出されており、1973年頃の空撮写真では東西に走る黒い筋として確認できる。黒い筋は遺跡範囲を越えて西へ続くので、吉原遺跡群を横切る水路状の施設であることが考えられる。



第9図 吉原II遺跡調査概要図 (S = 1/2000)

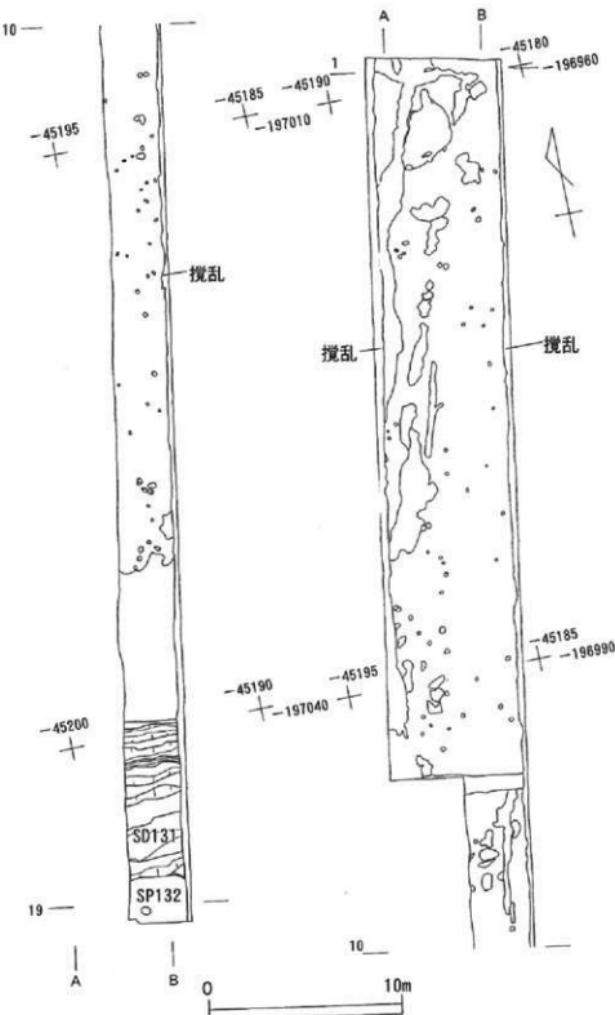


図10 吉原II遺跡第2次調査遺構配置図(S=1/250)

石田遺跡

1 調査要項

遺跡番号 山形県遺跡番号 82
遺跡略号 ISD
所在地 山形市大字谷柏元上谷柏字石田
調査原因 東北電力株式会社谷柏変電所新設工事
調査面積 約2,600m²
調査期間 C調査 2000/4/10~2000/6/30
調査担当者 須藤英之 武田和宏

2 調査の経緯

大字谷柏の石田地区において、東北電力株式会社山形支店により谷柏変電所建設事業が計画され、当市教育委員会に埋蔵文化財の有無について照会があった。事業予定地が周知の遺跡「石田遺跡」に隣接することから、教育委員会では平成11年5月に試掘調査を実施した。その結果、事業予定地内のはば全域に遺構・遺物の広がりが認められ、同遺跡の広がりが確認された。また、事業地に隣接する高速道路予定地内などから、古代の建物跡と思われる柱根が確認され、同遺跡がさらに広範囲に存在することが予想された。こうした状況から、事業者側と協議を行い、開発のかかる部分については事前に発掘調査を実施し、記録による保存をはかる運びとなった。

3 遺跡の立地と環境

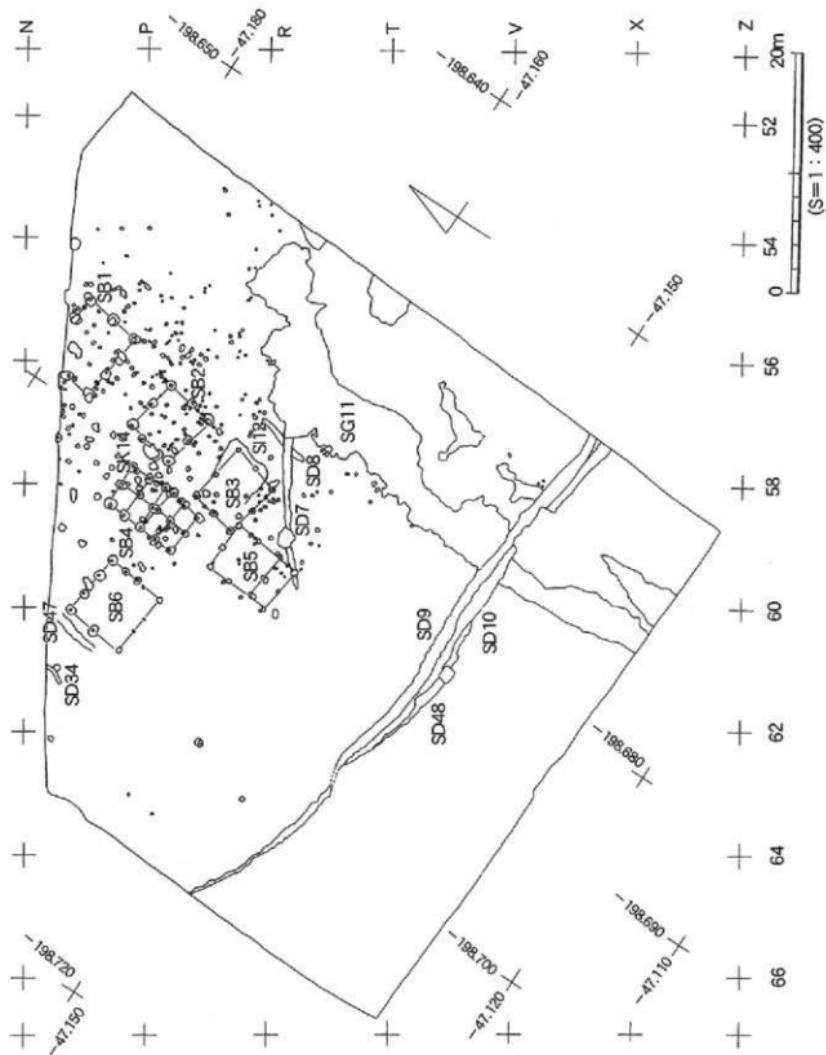
本遺跡は山形市の南西部、JR 奥羽本線蕨王駅の西方約2kmに所在する。本沢川と花川によって形成された扇状地の扇央部に立地し、標高は約127mを測る。調査時の地目は水田である。

4 検出された遺構と遺物

遺跡の主体の遺構は奈良～平安時代の掘立柱建物跡群を中心とする。柱穴の切り合ひ及び建物の軸線方向から建物跡群には2時期の変遷が想定される。出土遺物から8世紀末～9世紀初頭の年代が与えられ、大きな時期差はなく建替えが行われたものと考えられる。建物跡群の北東の位置には東西に走る川跡が検出された。出土遺物から建物群とほぼ同時期と想定される。出土遺物は須恵器壺・甕・蓋・高台壠、土師器甕等であり、墨書き器も散見される。木柱根の残存状況も良く、20本前後検出された。

5 まとめ

本調査区からは計6棟の掘立柱建物跡が検出された。なお、当調査と同時期に、西側隣接地で山形県埋蔵文化財センターによって調査が行われ、多数の掘立柱建物跡が検出されており、遺構・遺物共に同様の様相を呈している。よって、本市調査部分で検出された建物跡は、山形県埋蔵文化財センター調査部分で検出された建物跡群の一部を構成するものと推定され、今後の整理作業の過程で双方の成果を合わせて検討する必要があると思われる。教育委員会調査部分については、平成14年度に報告書を刊行する予定である。



第11図 石田遺跡遺構配置図

第Ⅲ章 総括

平成12年度の調査成果

平成12年度は、前述のとおり、土地区画整理事業に伴う調査を中心に、住宅団地開発事業、店舗建設工事、変電所建設工事、道路改良工事に伴う緊急発掘調査及び史跡整備事業に伴う学術調査を実施している。なお、これまで本市教育委員会で発行した発掘調査報告書は表2のとおりである。

山形城跡では、史跡山形城跡本丸大手門復原整備事業に伴う発掘調査が継続されており、山形城跡の石垣・土塁・堀の構造の一端が判明し、また、江戸時代前期(17世紀代)の普請による構造であることがほぼ明らかになった。また、本丸堀が湿性地(水堀)であることが証明された。

双葉町遺跡、城南町一丁目遺跡では、これまでと同様古代～近世の遺構・遺物が検出され、山形城下町の一端が明らかとなった。

吉原I遺跡では、方形館の形態をなした中世の集落の様相が明らかとなり、堀跡外部には土坑群及び竪穴建物跡群が検出された。店舗建設工事部分については、平成12年度に報告書として刊行している。

吉原II遺跡では、吉原遺跡群を横切る水路状の施設の存在を想定させる溝跡が検出された。

吉原III遺跡では、8世紀後葉～9世紀前葉の遺構・遺物が検出され、掘立柱建物跡群を区画すると推定される杭列が検出された。店舗建設工事部分については、平成12年度に報告書として刊行している。

石田遺跡では、掘立柱建物跡群が検出された。隣接地の山形県埋蔵文化財センター調査部分と同様の様相を呈し、同じまとまりを持つものと考えられる。本市調査部分については、平成14年度に報告書を刊行する予定である。

中野目I遺跡では、古墳時代後期の住居跡及び8世紀末葉から9世紀後葉の多数の竪穴住居跡が検出された。調査成果については、平成11年度に実施した中野目II遺跡と併せて、平成12年度に報告書として刊行している。

観音堂遺跡では、近世の建物跡が検出された。周辺に堂宇が存在したという伝承があるが、今回検出された建物跡がそれに当たるかは、不明である。

一ノ坪遺跡では、古墳時代前期及び後期の集落跡、8世紀～10世紀前半の集落跡が検出された。調査成果は、平成13年度に報告書として刊行している。

表2 埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

集番号	書名	発行年月日	発行機関	備考
1	熊ノ前遺跡第1次発掘調査報告書	1975/5	山形市教育委員会	第1次調査報告書
2	熊ノ前遺跡第3次発掘調査報告書	1978/11	山形市教育委員会	第3次調査報告書
3	山形城跡発掘調査報告書	1981/3	山形市教育委員会	
4	脇沢古墳二号墳発掘調査報告書	1987	山形市教育委員会	
5	脇沢2号塚	1991	山形市教育委員会	
6	鳴瀬跡発掘調査概報	1994	山形市教育委員会	
7	馬上台遺跡発掘調査報告書	1995/3	山形市教育委員会	
8	山形城本丸発掘調査概報	1996/3	山形市教育委員会	平成6・7年度調査概報
9	中野目I遺跡中野目II遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	特殊法人日本勤労者住宅協会 山形県労働者住宅生活協同組合 山形市教育委員会	
10	吉原I遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社カワワ子薬品	店舗建設に伴う発掘調査報告書
11	吉原III遺跡発掘調査報告書	2001/3/31	株式会社東北ケーズデンキ	店舗建設に伴う発掘調査報告書
12	一ノ坪遺跡発掘調査報告書	2001/11/30	山形市教育委員会 考古学研究所	

山形市埋蔵文化財調査年報

平成 12 年 度

2002年3月31日発行

発行 山 形 市 教 育 委 員 会

〒990-8540 山形市旅籠町二丁目3番25号

TEL023-641-1212

印刷 口口二一印刷(山形福祉工場)

〒990-2322 山 形 市 桜 田 南 391 - 2

TEL023-641-1136
